

久野光朗名誉教授記念号の発刊によせて

学長 山田家正

このたび、商学討究第47巻第2・3合併号を発刊するにあたり、本学の教育・研究に多大の貢献をされた小樽商科大学名誉教授久野光朗先生のご業績を讃え、本号を「久野光朗名誉教授記念号」とすることに致しました。

久野先生は一橋大学商学部を昭和30年にご卒業後、同大学大学院修士課程に進学され同32年に修了後直ちに本学商学部講師として着任されました。その後39年に助教授、45年に教授に昇任され、平成7年3月をもってご退官されるまでの38年間を本学の商学科および大学院商学研究科担当教官として会計学の研究と教育に情熱を注がれました。

久野先生のご薫陶をうけた多くの学生達が本学をはじめ他大学で活躍する研究者として育ったことは、先生がいかに優れた大学教官であったかを物語るものであります。

また、同時に本学の運営にも多大なご貢献を頂きました。すなわち、昭和51年7月から53年6月まで学生部長、55年3月から57年6月まで附属図書館長、そして61年7月から平成2年6月まで再び学生部長を務められ、文字通り本学の重鎮として本学発展に尽くされました。ご退官後は請われて北海道情報大学の教授に就任され、教育・研究生活を続けておられます。また、本学にも非常勤講師として来て頂いております。

先生のご専門の会計史、とりわけアメリカ会計史関係のご研究では、後に掲載されているように多数の著書、論文等を精力的に発表されておられますが、それらのご業績は高い評価を受け、日本会計史学会賞、日本会計研究学会賞を

受賞されるなど、日本の会計史研究の指導的役割を果たされたことはご高承の通りです。学会においては、日本会計研究学会、日本会計史学会、日本簿記学会、日本監査研究学会、北海道経済学会などにおいて評議員、学会賞審査委員などを務められその運営、発展に貢献しておられます。また、国、北海道、小樽市の各種審議会会長、委員を歴任されて地域社会の発展にも尽力されました。

平成7年1月21日の久野先生の最終講義は210番教室で開催されましたが、広い教室も全国各地から集まった久野ゼミOBにより満席の盛況でした。かなりの年配の方もおられましたが、考えてみれば、先生が本学に着任された時はまだ学生とそれほど年令の違わないお年であったわけです。当日配布された先生の最終講義録「定年退官にあたって－ある会計学徒の軌跡－」には研究者への道、研究・教育の主要業績、授業（ゼミ）・クラブ・行政職・社会活動、むすび－久野語録－の4章に分けて書いておられます。この講義録に沿ってのお話を拝聴しましたが、大学人としての身の処し方を考える上で教えられる点が多く感銘深いものでした。年令の若い教官諸氏に大いに参考にして頂きたい講義録でもあります。

本学を退官されても研究者としての意欲は益々お盛んな先生の姿勢に日頃敬服しておりますが、先生の益々のご発展とご多幸を祈念申し上げるとともに、長年に亘る本学へのご貢献に深甚なる謝意を表して発刊のご挨拶と致します。